

読書コンシエルジュからの挑戦状

謎解きだけじゃない！笑いも切なさも入り交じる傑作ぞろい。



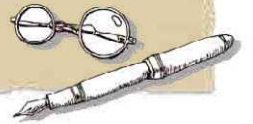
Level.1



人の愛と欲望が交錯する衝撃ミステリー

『僕はお父さんを訴えます』(友井羊/著 宝島社)

中学1年生の夏休み、河原で瀕死状態の愛犬リクを見つける。主人公の光一はリクのけがが人為的なものであることを知り、証拠を手に実父を訴える決断をする。父は否定し続け裁判は平行線をたどると思われたが、ある証拠が誰にも予想できない展開へと導くことに…。(宇都宮北高 Mさん)



日本のミステリーといえば江戸川乱歩、
江戸川乱歩といえば...コレだ！

『D坂の殺人事件』(江戸川乱歩/著 角川文庫)

この本には五つの話が載っています。一つ一つのトリックが凝っているので、読んでいて楽しいし、図が付いているので謎解きに挑戦しやすくなっています。皆さんもぜひ、【超推理】してみてください♪ (宇都宮中央女子高 Nさん)



Level.2

ゆかいな便利屋物語

『まほろ駅前多田便利軒』
『まほろ駅前番外地』
『まほろ駅前狂騒曲』
(三浦しをん/著 文藝春秋)

まほろ市の駅前で便利屋を営む多田と彼のもとに転がり込んだ高校時代の同級生・行天。彼らのもとにはペットの世話から身辺警護まで様々な依頼が舞い込むが、何故かいつもおかしな展開に。個性豊かなまほろ市民たちと多田・行天のコンビが贈る連作短編集。

(宇都宮東高 Nさん)

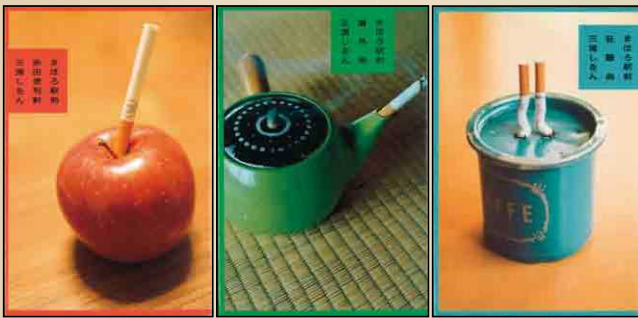


この中の誰がいったい…？”

『冷たい校舎の時は止まる』全3巻
(辻村深月/著 講談社)

仲良くやっていたはずの8人組。しかし、大学受験の迫るある雪の日に、何故か校舎に閉じ込められたことから、8人の関係に歪みが生まれて…。ミステリー×青春群像×ファンタジー！心理描写がすごく丁寧で、どの登場人物にも思わず共感してしまうはず。

(昭和女子大 Mさん)



Level.3



日常が、非日常に…

『完全なる首長竜の日』(乾緑郎/著 宝島社)

この作品は、自殺未遂により昏睡状態の弟と、「センシング」と呼ばれる機械を通じてコミュニケーションを取る医療技術を用いて主人公が対話し、何故自殺を図ったのかを探る物語です。タイトルにある首長竜がどう物語に関わっていくのかが見所の一つです。ぜひ読んでみてください。(真岡北陵高 Tさん)

